

わくわく せいかつ 上

学習内容一覧表

単元	配当 時数	予備 時数	配当時数のうち、学校の授業以外の場での学習が可能と考えられる時数 / 年間計画上の留意点	
◆がっこう だいすき あいうえお	6	1	0.0	
◆いくぞ！ がっこう たんけんたい	10		0.5	
◆げんきに そだて わたしの はな (1学期)	5		0.0	たねまきを行っていない場合は、優先的に行う。
◆あそびばに でかけよう	5		0.0	
◆なつと なかよし	6		0.0	
◆げんきに そだて わたしの はな (2学期)	5	5	1.0	栽培状況に応じて、指導時期を調整する。
◆生きもの 大すき	7		2.0	
◆あきと なかよし	15		1.0	
◆ひろがれ えがお	10		3.0	
◆ふゆと なかよし	10	4	1.0	
◆もう すぐ 2年生	13		3.0	
計	92	10	11.5	
年間授業時数	102			

本資料は、令和2年度版教科書「わくわく せいかつ 上」に基づいて、学校での授業と、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の学習指導計画案を示したものです。

具体的な活動や体験を通して学ぶ生活科の教科特性や、低学年という発達段階、家庭環境の多様さを踏まえると、生活科の学習は、できるだけ学校で行うことが望ましいと考えます。地域や学校の状況に合わせて、適宜、学校の授業以外の場において取り組む学習活動を増減していただくなどしてご活用ください。

備考

- ・地域の方との交流や施設の利用にあたっては、感染の状況に十分に注意することが必要となります。
- ・手をつなぐ、歌を歌う、ペアでの伝え合いなどの活動についても、状況を見て、代替の活動を検討するなどの配慮が必要となります。
- ・学校の授業以外の場での学習活動において、インターネット上のデジタルコンテンツ等を活用することも考えられます。その際は、児童の通信環境に配慮するとともに、インターネット利用のルールとマナーを指導しておくことが望まれます。

単元名

がっこう だいすき あいうえお

教科書 上巻 小寸p.1 ～ 15 単元の配当時間 生活科6時間（そのうち※の時数 0時間）

単元の目標

学校生活に安心感をもち、楽しく元気に生活していこうとする意欲と自信をもつことができるようにする。

小単元の目標の例

ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名	小単元の目標	※の時数	※学校の授業の場以外での学習 が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動 に有効なデジタルコンテンツの例）
たくさんのともだちが あつまってきたね。	小寸p.2-3 幼稚園や保育所，認定こども園，家庭などでの経験を思い出し，その活動が小学校生活にもつながっていることがわかることで，安心感をもちことができるようにする。	0		○1年生の子どもたちが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を充分に発揮できるように指導や支援を工夫し，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として，子どもを見取っていくようにする。
いちねんせいにな ったよ。	小寸p.4-5 小学校には，登下校，学習，休み時間，給食など楽しいことがたくさんあることを知り，小学校生活への期待や喜びを高められるようにする。	0		
あたらしいまいにち	小寸p.6-7 ・学校での生活の仕方がわかり，自分のことは自分でできるようにする。 ・教室を「自分の居場所」として意識し，安心感をもち学校生活をおくることができるようにする。	0		●手洗い・うがいの習慣がつくように指導する。 ○「体調がよくない時は，すぐに先生に言ってね」「困ったことがあったら，何でも先生に言ってね」などの約束を確認しながら，子どもが安心して学校生活をおくれるように支援する。
いっしょにできるかな？	小寸p.8-9 友達と遊んだり，関わったりする活動を通して，そのよさや楽しさがわかり，自分がクラスの一員であることに気付くことができるようにする。	0		●手をつなぐ，歌を歌う，ペアでの伝え合いなどの活動については，状況を見て，代替の活動を検討するなどの配慮が必要となる。
うきうきあそぼう	小寸p.10-11 他教科との合科的・関連的な学習を通して，学ぶ楽しさがわかり，学ぶ意欲を高めることができるようにする。	0		●手をつなぐ，歌を歌う，ペアでの伝え合いなどの活動については，状況を見て，代替の活動を検討するなどの配慮が必要となる。
えがおのがっきゅう	小寸p.12-13 ・友達と協力して，給食や掃除に取り組むことができるようにする。 ・みんなで楽しく給食を食べることができるようにする。 ・掃除の仕方を知り，きれいになった達成感や満足感を感じられるようにする。 ・係の仕事や日直など，自分の役割がわかり，取り組むことができるようにする。	0		●上級生との関わり（給食の準備や掃除を一緒に行う）は，感染症対策の観点から実施できない可能性も考えられる。状況を見て，代替の活動で交流を深めるようにするなどの配慮が必要となる。
おもしろいな たのしいな	小寸p.14-15 友達や上級生，担任の先生やその他の職員と関わりを深め，学校生活への興味・関心を高めることができるようにする。	0		●手をつなぐ，歌を歌う，ペアでの伝え合いなどの活動については，状況を見て，代替の活動を検討するなどの配慮が必要となる。

単元名

いくぞ！がっこう たんけんたい

教科書 上巻 p.2 ～ 19 単元の配当時間 10 時間（そのうち※の時数 0.5時間）

単元の目標

学校や通学路を探検する活動を通して、学校の施設とその役割、学校で働いている人々とその仕事を考えるとともに、自分も学校の一員であることが分かり、楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。また、通学路の様子や学校の周りの支えてくれる人々に気づき、安全な登下校ができるようにする。

小単元の目標と評価例

ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
なにがあるかな？ だれがいるかな？（1時間） 学校のことについて、知っていることや知りたいと思うことを話したり、友達の意見を聞いたりして、学校の中の場所や人に興味・関心を持つことができるようにする。	知・技	学校には、さまざまな部屋があり、たくさんの人がいることに気付いている。	p.4-5	0		
	思・判・表	学校のことについて、知っていることや知りたいと思っていることを考えたり、話したりしている。	① 学校にはどんな部屋があるか、どんな人がいるか話し合う。 ② 行ってみたい場所や知りたいことを話し合う。 ③ 学校を探検する時に気を付けることを確認する。			
	主体	学校内の施設や人々に関心を持ち、みんなと楽しく探検したいという思いや願いをもっている。				
みんなで がっこうを たんけんしよう（1時間） 先生や上級生と一緒に学校を回り、学校の中の場所や人への興味・関心を高めることができるようにする。	知・技	学校には、さまざまな部屋があり、たくさんの人がいることに気付いている。	p.6-7	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。
	思・判・表	学校には、みんなで気持ちよく安全に過ごすためのルールやマナーがあり、それを考えて行動している。	① 学校を探検する時の約束を確認する。 ② 学校全体を回り、他学年の教室、特別教室やいろいろな場所の存在を知る。 ③ 教室に戻り、気付いたことを話し合う。			
	主体	学校内の施設や人々に関心を持ち、楽しく探検しようとしている。				

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
きになる ばしょに いてみよう（2時間） 友達と一緒に，自分が気になる場所へ行き，学校で働く人や上級生と関わりながら，学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かるようにする。	知・技	学校の中の場所や人，部屋にある物や部屋の目的，場所ごとのマナーに気付いている。	p.8-9 ① みんなで学校を歩いた時のことを思い出し，自分で探検に行きたい場所を決める。 ② 学校探検の約束を話し合う。 ③ グループごとに学校を探検する。 ④ 教室に戻り，気付いたことを話し合う。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。
	思・判・表	学校内の場所ごとのルールを守って行動したり，礼儀正しく話したりしながら，部屋にある物やいる人，部屋の目的などを考えたり，調べたりしている。				
	主体	学校内の施設や人々に関心をもっていろいろな場所へ行き，楽しく探検しようとしている。				
がっこうのひととはなしてみよう（1時間） 学校の人と繰り返し関わることを通して，学校生活を支えてくれている人々のことについて考えることができ，学校生活は様々な人々によって支えられていることが分かるようにする。	知・技	学校には様々な施設があることや，自分たちの学校生活を支えてくれている人々がいることに気付いている。	p.10-11 ① 学校探検で関わった人のことを思い出し，もう一度探検に行く意欲を高める。 ② 学校にいる人に，疑問に思っていることや仕事のことを聞きに行く。 ③ 教室に戻り，気付いたことを話し合う。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。
	思・判・表	インタビューを通して，学校で働く人が自分とどのように繋がっているかを考えている。				
	主体	学校内の施設や人々に関心をもち，繰り返し関わろうとしている。				

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
こうていを たんけんしよう（1時間） 校内の動植物と触れ合ったり，草花や虫を見つれたり，校庭の遊具や施設などを正しく使ったりして，楽しく安全に校庭を使用することができるようにする。	知・技	校庭にある施設の位置や特徴，役割に気付いている。	p.12-13 ① 校舎探検から発展させ，校庭探検への意欲を高める。 ② 気になる場所で遊んだり，人や動植物と関わったりして，校庭のお気に入りの場所を見つける。 ③ 校庭探検のことを友達に知らせる。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。
	思・判・表	動植物に優しく接したり，ルールを守って遊具や施設を利用したりなど，自分なりに考えて行動している。				
	主体	校庭の動植物や遊具・施設に関心をもち，興味深く動植物と接したり，校庭で友達と仲良く遊んだりしようとしている。				
がっこうの まわりをあててみよう（1時間） 通学路にある自然や人々，安全を守るための施設などに気付き，それぞれの地域で楽しく安全に生活することができるようにする。	知・技	通学路にある自然や安全を守るための施設，安全を守っている人の存在などに気付いている。	p.14-15 ① 学校マップを振り返り，学校の周りにも行ってみたいという意欲を高める。 ② 学校の周りをみんなで歩く。 ③ 安全を守ってくれている人や施設について話し合う。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。
	思・判・表	みんなで歩いて発見したことや，自分の地域のお気に入りの自然や人などについて，話したり聞いたりしている。				
	主体	通学路の様子やその安全を守っている人々の存在を感じながら，みんなで歩いたり，自分の地域を見直したりしようとしている。				

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
みつけた ことを しょうかいしよう（3時間） 見つけた物や気付いたことを教え合うことを通して，学校への愛着や学校生活への自信を深めることができるようにする。	知・技	学校の中の場所や人，部屋にある物や部屋の目的，校庭にある物や自然，場所ごとのマナーについて気付くとともに，安心して学校生活を送ることができるようになった自分に気付いている。	p.16-17 ① かきためてきたカードや学校マップを見ながら，校舎探検や校庭探検を思い出す。 ② お気に入りを決め，発表の準備をする。 ③ お気に入りを発表する。 ④ 学校探検をして良かったことを話し合う。	0.5	・家の人に学校探検で見つけた物や気付いたことについて話す。	○学級便りを通して，事前に保護者の方に，子どもから学校探検の報告があることを伝え，子どもの話を聞いて，質問や感想を言ってもらうように依頼する。
	思・判・表	見つけた物・こと・人について分かりやすく伝えるために言葉や動作で発表している。				
	主体	見つけた物・こと・人について先生や友達に意欲的に話したり，友達の話を聞こうとしたりしている。				

単元名

げんきに　そだて　わたしの　はな

教科書　上巻　p.20 ～ 33

単元の配当時間　10 時間（そのうち※の時数　1時間）

単元の目標

植物を育てる活動を通して、植物が育つ場所や変化の様子に関心をもち、植物も自分たちと同じように生命をもっていることに気付くとともに、親しみをもって大切にすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
どの　はなを そだてたいかな？ （1時間） これまでの経験や友達の話から、自分の育てたい花を決めることができるようにする。	知・技	複数の植物の種を比較して、植物によって種の形や大きさ、色に違いがあることに気付いている。	p22-23 ① これまでの栽培経験を話す。 ② 育てたい花を決める。 ③ 種を観察して絵や文章、言葉などで表現する。	0	・休校期間中に、春植えの花（あさがお、ひまわりなど）の栽培活動を家庭などで行った場合は、そのようすを伝え合い、本時と次時を合わせて1時間扱いとすることが考えられる。	○たねまきを行っていない場合は、優先的に行う。
	思・判・表	楽しく植物を育てる様子を思い描きながら、自分が育てたい植物を選んだり、決めたりしている。				
	主体	自分が育てたい植物について関心をもち、思いや願いをもって関わろうとしている。				
たねを　まこう（1時間） 自分が育てたい花が、元気に育つように願いながら、花の種をまくことができるようにする。	知・技	自分が育てる植物の種の特徴に気付いている。	p24-25 ① 種のまき方を確認する。 ② 土を準備する。 ③ 種をまく。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ★教科書p.21QR「あさがおのたねのまきかた」，「ほうせんかのたねのまきかた」，「むしめがねのつかいかた」
	思・判・表	種の大きさを考えて、まく場所や数を工夫して、種まきをしている。				
	主体	自分が育てる植物について、発芽や成長を楽しみにしながら、種まきをしているようにしている。				

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
せわを しよう（1時間） 自分が育てている植物について成長の様子や変化に関心を持ち，成長に応じた観察や世話をすることができるようにする。	知・技	育てている植物の成長する様子や変化に気付き，成長に合った世話の仕方があることに気付いている。	p.26-27 ① 芽が出てきた時に観察し，動作で表現したり記録したりする。 ② 成長の様子を観察カードに絵や文章で記録したり，言葉や動作で表現したりする。 ③ 世話をしていて生じた問題について話し合う。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ★教科書p.22QR「むしめがねのつかいかた」
	思・判・表	植物の変化や成長の様子を意識しながら，世話の仕方を工夫したり，観察したりしている。				
	主体	自分が育てている植物が，元気に大きく成長してほしいという思いや願いをもって，継続的に世話をしようとしている。				
じっくり みよう（2時間） 自分が育てている植物を観察し，成長にともなう変化に気付き，気付いたことを表現したり成長の仕方について考えたりできるようにする。	知・技	育てている植物の葉や花，育ち方の特徴に気付いている。	p.28-29 ① 成長の様子を観察し，見つけた秘密を記録する。 ② 咲いた花の数や様子を記録し，更に栽培意欲を高める。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ★教科書p.23QR「むしめがねのつかいかた」
	思・判・表	育てている植物の変化や成長の様子を調べたり，変化の様子を想像したりしながら，関わっている。				
	主体	自分が育てている植物について成長する様子や変化に関心を持ち，じっくり観察しようとしている。				
（↑ここまで1学期　5時間（そのうち※の時数　0時間））						

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の回数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動
(↓ここから2学期　5時間（そのうち※の回数　1時間）)						
たねを　とろう (1時間) 種のできる様子に関心をもって観察し，植物にも命があることに気付くことができる。	知・技	実の中にある種の形や大きさがまいた種と同じであることに気づき，植物にも命があることに気付いている。	p.30-31 ① 種ができる様子を観察し，記録する。 ② 種採りをする。 ③ 種の数を数えたり，種の様子を観察したりしながら気付いたことを伝え合う。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ★教科書p.24QR「むしめがねのつかいかた」
	思・判・表	熟している種と熟していない種を比べたり，特徴を確かめたりしながら，種採りをしている。				
	主体	種のできる様子に関心を持ち，たくさん採りたいという思いや願いをもって種採りを継続的にしようとしている。				
みつけた ひみつをつたえよう (4時間) 栽培活動を振り返り，作品に表したり，友達と交流したりすることを通して，植物が生命をもっていることが分かり，命を大切にしながら世話をすることができるようになった自分の成長にも気付くことができる。	知・技	植物への親しみが増し，上手に世話ができるようになった自分自身の成長に気付いている。	p.32-33 ① これまでの栽培の様子を振り返る。 ② 活動を通して気付いたことなどを振り返る。（ペアで伝え合う場を設定する。） ③ 家の人にも伝える。	1	・かきためてきたカードなどを見ながら，伝えたいことを考える。（0.5時間） ・家の人に，活動を通して気付いたことを話す。（0.5時間）	●ペアでの伝え合いは，可能になった時点で取り上げる。
	思・判・表	育ててきた植物と自分との関わりを振り返り，感じたことや考えたこと，分かったことなどを自分なりの方法で表現している。				
	主体	自分が育てた植物の成長の様子を振り返り，友達や先生，家の人などに伝えようとしている。				

単元名

あそびばに でかけよう

教科書 上巻 p.34 ～ 43

単元の配当時間 5 時間 (そのうち※の時数 0時間)

単元の目標

遊び場で遊ぶ活動を通して、 みんなで遊ぶ楽しさや遊びを創り出す面白さに気付くとともに、 遊び場はみんなで使う場所であることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、 それらを大切にし、 安全に気を付けて正しく利用できるようにする。

小単元の目標と評価例

ここに示した例は、 啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
なにが あるかな？ (1時間) 身近な遊び場やそこでした遊びを紹介し合いながら、 遊び場に行く意欲をもつことができるようにする。	知・技	遊び場を利用して、 友達と仲良く遊ぶことで、 遊びがより楽しくなることに気付いている。	p.36-37 ① 身近な遊び場を紹介し合い、 いつもどんな遊びをしているか話し合う。 ② 遊び場に行ってどんな遊びがしたいか話し合う。 ③ 遊び場に行く計画を話し合い、 準備するものを考える。	0		
	思・判・表	遊び場に行った経験やそこで遊んだことを振り返り、 友達に紹介している。				
	主体	身の回りの遊び場に関心を持ち、 みんなで楽しく遊ぶことに見通しをもって取り組もうとしている。				

単元の評価規準

●知識・技能

自然や遊具を利用して、 みんなで遊ぶ楽しさに気付くとともに、 遊び場はみんなで使う場所であること、 それを支えている人々がいること、 みんなで使うためのルールやマナーがあることに気付いている。

●思考・判断・表現

自然や遊具を利用して、 遊びを試したり、 工夫したり、 遊び場の良さや特徴を感じたり考えたりして、 それを自分なりに表現している。

●主体的に学習に取り組む態度

身近な自然や遊具に関心を持ち、 遊びを通して友達と進んで関わろうとしたり、 遊び場を安全に気を付けて正しく利用したりして、 自分たちの生活を豊かにしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
みんなで あそぼう （1時間） あそびをつくろう （2時間） 友達と遊びを工夫しながら，人や自然と楽しく触れ合い，その楽しさや不思議さに気付くとともに，遊び場のルールやマナーを守り，安全に気をつけて正しく利用することができるようにする。	知・技	・春から夏の生き物や自然の不思議さに気付いている。 ・遊び場には，みんなで使うためのルールやマナーがあることに気付いている。	p.38-41 ① 遊び場で楽しく遊ぶ時の約束を確認する。 ② 遊び場で友達と楽しく遊んだり，探検したりする。 ③ 楽しかったことや発見したことを思い思いに発表し合う。 ④ もう一度遊び場へ行く計画を立てる。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ○熱中症対策を十分に行う。 ★教科書p.35QR「はるのいきものずかん」，「きけんないきものずかん」，とりのなきごえ」，「しろつめくさのはなかんむり」，「たんぼぼのかざぐるま」，「たんぼぼのうでわ」，「からすのえんどうのふえ」
	思・判・表	・自然環境を生かし，工夫して遊んでいる。 ・みんなで仲良く安全に遊ぶために遊び方や約束を考えて遊んでいる。	① 遊び場で楽しく遊ぶ時の約束や自分がしたいことを確認する。 ② 前時に立てた計画をもとに，楽しく遊ぶ。			
	主体	みんなと楽しく遊びたいという願いをもち，自然に親しんだり，活動したりしようとしている。				
たのしかった ことを つたえよう（1時間） 遊び場で見つけたものや遊んだことを自分なりの方法で表現し，相手に伝えることができるようにする。	知・技	遊び場にはルールやマナーがあり，それらを守ったり，友達と仲良く遊んだりすることで，遊びがより楽しくなることに気付いている。	p.42-43 ① 楽しかったことの報告会の準備をする。 ② みんなに伝えたいことを自分なりの方法で発表する。 ③ 友達の発表を聞いたり，自分が発表したりしたことを振り返る。	0		
	思・判・表	遊び場で遊んだことや，遊びを通して気付いたことを自分なりの方法で表現している。				
	主体	気付いたことを友達や先生に分かりやすく伝えようとしたり，友達の発表を積極的に聞こうとしたりしている。				

単元名

なつと なかよし

教科書 上巻 p.44 ～ 57

単元の配当時間 6 時間（そのうち※の時数 0時間）

単元の目標

身近な自然を観察したり，夏の遊びを楽しんだりする活動を通して，春から夏への変化や夏の特徴，季節によって生活の様子が変わること気付くとともに，みんなと仲よく遊んだり，自分たちの生活を楽しくしたりすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
なつは どんな きせつかな？（1時間） 自分の知っている夏の季節の食べ物や植物，生き物，行事などについて友達と伝え合う活動を通して，興味・関心を高め，進んで夏を楽しむことができるようにする。	知・技	夏の季節の特徴に気付くとともに，多様な夏の楽しみ方があることに気付いている。	p.46-47 ① 夏について知っていることを発表する。 ② 教科書p.46 ～ 47 の写真を見ながら話し合う。 ③ 自分のしてみたい夏の遊びを考えて書く。	0		
	思・判・表	今までの体験を生かしながら，関心をもって夏の季節について考え，友達に伝えている。				
	主体	夏の季節に興味・関心を持ち，自分の体験について進んで話そうとしている。				
なつの こうていに でて みよう（1時間） 諸感覚を使って，夏の校庭を探検する活動を通して，植物の変化の様子や春とは違った生き物の存在に気付くことができるようにする。	知・技	夏の植物や生き物，校庭の変化の様子に気付いている。	p.48-49 ① 春の学校探検の際に見つけたお気に入りの場所を想起させる。 ② お気に入りの場所がどうなっているかを見に行き，春との違いを探す。 ③ 夏のお気に入りの場所を探す。 ④ 夏のお気に入りの場所を友達に紹介する。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ○熱中症対策を十分に行う。 ★教科書p.45QR「なつのいきものずかん」，「きけんないきものずかん」，「こうていのようすをくらべてみよう」
	思・判・表	諸感覚を使って，夏の植物や生き物を観察したり，夏の特徴を見つけたりしている。				
	主体	夏の校庭で見つけた春から夏への変化に応じながら，それらと関わろうとしている。				

単元の評価規準

●知識・技能

春の自然の様子との違いや，夏の特徴に気付くとともに，季節によって生活の様子が変わることやその面白さ，自然の不思議さに気付いている。

●思考・判断・表現

身近な自然や自分の生活，地域の行事から夏の特徴を見つけ，夏の楽しさや遊びの工夫について自分なりに考えたり，振り返ったりして，それを素直に表現している。

●主体的に学習に取り組む態度

季節の変化に関心を持ち，それらを取り入れて遊びを工夫したり，自分の生活を楽しくしようとしていたりしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
なつと あそぼう （3時間） 夏に適した遊びや，土や砂，水などを使った遊びを考えたり，工夫したりして，友達と楽しく遊ぶことができるようにする。	知・技	土，砂，水などを使って楽しく遊べることや，それらの性質の不思議さなどに気付いている。	p.50-53 ① 夏らしい遊びについて話し合う。 ② 友達と一緒に楽しく遊ぶ。 ③ 活動を振り返る。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ○熱中症対策を十分に行う。 ★教科書p.45QR「せみのなきごえ」，「とりのなきごえ」，「なつのぎょうじずかん」
	思・判・表	予想したり，確かめたり，見立てたりしながら，自分なりの遊び方を工夫している。				
	主体	みんなで楽しく遊びたいという願いをもち，粘り強く遊びを創り出そうとしている。				
みつけた なつをつたえよう（1時間） 夏の季節の不思議さや面白さ，工夫して遊んだことを自分なりの方法で表現し，相手に伝えることができるようにする。	知・技	夏の季節の不思議さや面白さに気付き，伝える活動を通して，その良さや季節と自分の生活の関わりに気付いている。	p.54-55 ① 何を伝えたいのか考える。 ② 伝えたいことを表現する方法（絵や立体など）を考え，準備する。 ③ お互いの見つけた夏を伝え合う。	0		
	思・判・表	伝えたいことが相手に伝わるかどうかを考えながら，伝える内容や伝える方法を考えて発表している。				
	主体	夏の季節の不思議さや面白さ，工夫して遊んだことを進んで伝えようとしている。				

単元名

生きもの 大すき

教科書 上巻 p.58 ～ 71 単元の配当時間 7時間（そのうち※の時数 2時間）

生き物と触れ合ったり世話をしたりする活動を通して、生き物の育つ場所，変化や成長の様子について興味・関心をもって働きかけ，それらの成長や命の尊さに気付くとともに，生き物を愛着をもって大切にすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
生きものに あいに いこう （2時間） 学校探検での生き物との出会いや，これまでの飼育経験を生かして生き物を探し，生き物と関わりたいという思いをもつことができるようにする。	知・技	校庭の草むらや石の下，飼育小屋などに，生き物がいることに気付いている。	p.60-61 ① これまでの飼育経験を話す。 ② 学校探検で見つけたり出会ったりした生き物を紹介する。 ③ 生き物に会いに行く。			●活動前後に手洗い・うがいを行う。 ○熱中症対策を十分に行う。
	思・判・表	学校探検や今までの生活を振り返り，生き物がすんでいそうな場所を考えて，生き物に会いに行っている。				
	主体	身近な生き物に関心をもち，その生き物に関わろうとしている。				
生きものと ふれあおう （3時間） 身近な生き物に関心をもち，生き物の気持ちを考えて触れ合ったり，観察したりすることができるようにする。	知・技	それぞれの生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。	p.62-63 ① 生き物に必要な世話を話し合う。 ② 生き物との関わりを深める。 ③ 生き物を観察し，気付いたことを記録する。	1	・生き物に必要な世話を調べる。	○生き物に必要な世話を調べる際は，教科書p.70-71「生きもののそだてかた」や教科書p.59QRを参考にしたり，本やインターネットを活用したり，詳しい人に聞いてみるなどの方法が考えられる。 ●活動前後に手洗い・うがいを行う。 ★教科書p.59QR「モルモットのかいかた」，「ウサギのかいかた」，「ヤギ，ヒツジのかいかた」，「カエル，おたまじゃくしのかいかた」，「テントウムシのかいかた」，「アゲハのかいかた」，「バッタのかいかた」，「やごのかいかた」
	思・判・表	生き物との関わり方を調べたり，自分なりに考えたりしながら，観察したり世話したりしている。				
	主体	生き物に関心をもち，繰り返し生き物に触れたり，世話をしようとしたり，遊んだりしようとしている。				

単元の評価規準

- 知識・技能
生き物が変化し成長していることに気付くとともに，生き物の命を大切にしながら世話ができるようになった自分自身の成長に気付いている。
- 思考・判断・表現
生き物の育つ場所，変化や成長の様子について興味・関心をもって働きかけるとともに，生き物の世話の仕方や接し方について考えたり工夫したり，振り返ったりし，それを素直に表現している。
- 主体的に学習に取り組む態度
生き物に心を寄せ，愛着をもって接するとともに，生命あるものとして世話をしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
見つけた ことを しょうかいしよう（2時間） 生き物との触れ合いや関わり合いを振り返り，生き物の様子を伝え合うことを通して，どの生き物も自分と同じように生きていることに気付くことができるようにする。	知・技	仲良くなった生き物も，自分と同じように命をもっていることに気付き，生き物への親しみが増し，上手に世話ができるようになった自分に気付いている。	p.64-65 ① 見つけたことや感じたことを紹介する計画を立てる。 ② 仲良くなった生き物を紹介する。 ③ 活動を振り返る。	1	・家の人に生き物と触れ合って見つけたことや気付いたことについて話す。	○学級便りを通して，事前に保護者の方に，子どもから生き物との交流の報告があることを伝え，子どもの話を聞いて，質問や感想を言ってもらうように依頼する。
	思・判・表	仲良くなった生き物の様子や世話の仕方について自分なりの方法で伝え合っている。				
	主体	生き物と関わり，抱いたり触ったりして思ったことや，生き物と一緒に遊んで分かったことを，友達や家族に知らせようとしている。				

単元名

あきと なかよし

教科書 上巻 p.72 ～ 85 単元の配当時間 15時間（そのうち※の時数 1時間）

単元の目標

秋の校庭や遊び場などで散歩したり遊んだりする活動を通して、季節が秋に変化したことに気付くとともに、木の葉や木の実などの自然物を使ってみんなで工夫して生活に役立つものを作ったり、遊びに使うものを作ったりして、楽しむことができるようにする。

小単元の目標と評価例

ここに示した例は、啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
あきは どんな きせつかな？（1時間） 普段の生活で気付いた秋について友達と伝え合う活動を通して、身近な秋に関心を持ち，秋探しに行く計画を立てることができるようにする。	知・技	夏から秋へ自然の様子が変化していることに気付いている。	p.74-75 ① 身の回りで感じられる季節の変化について気付いたことを発表し合う。 ② 秋探しに出かける計画を立てる。	0		
	思・判・表	身の回りで感じられる季節の様子や変化について考えたり，予想したりして，それらを探す計画を立てている。				
	主体	身の回りに感じられる季節の様子や変化に関心を持ち，それらを見つめようとしている。				
あきの 校ていに出よう（2時間） 春や夏の様子と比べながら，季節の変化を遊びや秋探しの中から，諸感覚を使って感じ取ることができるようにする。	知・技	校庭の植物や生き物の様子の変化していることから，季節が変わったことや自然の不思議さや面白さに気付いている。	p.76-77 ① 校庭での秋探しの約束を確認する。 ② 校庭に出て，秋を探したり，落ち葉や木の実で遊んだりする。 ③ 春や夏の校庭の様子と比較しながら，見つけた秋を紹介し合う。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ★教科書p.73QR「あきの生きものずかん」，「きけんな生きものずかん」，「虫のなきごえ」，「とりのなきごえ」，「校ていのようなすをくらべてみよう」，「どんぐりずかん」
	思・判・表	諸感覚を使って校庭の自然を観察したり，関わったりすることを通して，季節の変化を感じ，それらを利用した遊びを考えている。				
	主体	秋の植物や生き物に関心を持ち，校庭の様子の変化を探そうとしている。				

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
もっと あきをさがしに いこう（2時間） 春や夏と比べながら，公園や野原などの遊び場の変化を，諸感覚を使って感じ取るとともに，見つけた秋の自然物や生き物に興味・関心をもつことができるようにする。	知・技	・公園や野原など遊び場のルールやマナーを守ることの大切さに気付いている。 ・秋探しを通して，植物や生き物の様子が変化していることや，人々の生活が変わっていることに気付いている。	p.78-79	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ○遊び場（公園や野原など）へ訪問することが難しい場合は，学校の校庭でのみ秋探しをすることも考えられる。その場合は，春や夏の校庭の写真を見せたり，春や夏の公園探検のカードを振り返ったりして，より深く校庭の季節の変化に気付くことができるように支援する。
	思・判・表	公園や野原など身近な自然を観察したり，関わったりすることを通して，季節による変化や特徴を見つけ，それらを利用した遊びを考え，みんなで楽しく遊んでいる。	① 遊び場での秋探しの持ち物や約束を確認する。 ② 遊び場に出かけ，春や夏から変わったところを見つける。 ③ 発見カードをかいたり，見つけたことを紹介したりする。			
	主体	秋の植物や生き物に関心をもち，公園，野原の様子の変化を探そうとしている。				
見つけた あきをじっくり 見よう（1時間） 校庭や公園など身近な自然で見つけた秋をじっくり観察したり比べたりする活動を通して，見つけたことを友達と伝え合い，季節の違いやその特徴に気付くことができるようにする。	知・技	友達と伝え合うことを通して，秋らしさや自然の変化に気付いている。	p.80-81	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ★教科書p.73QR「あきの生きものずかん」，「どんぐりずかん」
	思・判・表	木の実や落ち葉などをじっくり観察したり，比べたりして，秋の特徴を捉えたり，秋らしさを考えたりしている。	① 秋探しに行って，見つけた葉っぱや木の実をじっくり見て，見つけた季節の変化や楽しかった遊びを思い出す。 ② 見つけたり感じたりした秋を友達と紹介し合う。 ③ 秋探しでの発見を伝える方法を話し合う。			
	主体	季節による変化や季節の特徴について発見したことや感じたことを友達に伝えようとしている。				

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
見つけた あきで あそんで みよう（5時間） 木の実や落ち葉などの秋の自然物を使って遊ぶものや飾るもの，生活に役立つものなどを工夫して作ったり，自然物の形状から様々な発見をしたりして，秋を楽しむことができるようにする。	知・技	みんなが楽しく遊べるように，遊び方やルールを工夫することや，分かりやすく伝えるために工夫が必要であることに気付いている。	p.82-83 ① 集めてきた落ち葉や木の実などを使った，作品やおもちゃ作りのイメージをもつ。 ② 作りたいものを作ったり，自然物について表現したりする。 ③ 作ったものや発見したものを紹介し合い，改良しながら楽しく遊ぶ。	0		●活動後に手洗い・うがいを行う。 ●どんぐりに穴をあける道具やグルーガンなどは複数の児童が共有して使用することがないように，教師が代わりに行うようにする。
	思・判・表	比べたり，試したり，見立てたりしながら，秋の自然物を使って遊ぶものや生活に役立つものを工夫して作っている。				
	主体	友達の良さを取り入れたり，自分との違いを生かしたりして，遊びを楽しむようとしている。				
みんなで あそぼう（4時間） 作ったもので遊んだり，発見したことを紹介したり，生活に役立つものの作り方を紹介したりして，みんなで秋を楽しむことができるようにする。	知・技	秋を楽しむことを通して，秋の自然物の不思議さや面白さに気付いている。また，単元の振り返りを通して，自分の頑張りが友達の頑張りに気付いている。	p.84-85 ① みんなで協力して，秋祭り（仮称）の準備をする。 ② これまでに作った作品を使って，秋祭りをする。 ③ 活動を振り返り，後片付けをする。	1	・家の人に秋の落ち葉や木の実でつくったおもちゃを見せ，工夫したところを話す。	●活動後に手洗い・うがいを行う。 ●秋祭りは，共用の作品を児童が使用することが想定されるため，感染症対策の観点から実施できない可能性も考えられる。 ○秋祭りを開催しない場合は，空き教室やオープンスペースなどに子どもたちの作品を種類ごとに掲示・展示する活動に変更することも考えられる。その場合は，「見てもらう人に伝わるようにしよう」などの目標をもって，まとめ方や掲示の仕方を工夫させるようにする。
	思・判・表	伝えたいことを分かりやすく伝えたり，みんなが楽しく遊べるようにルールや約束を工夫したりしている。				
	主体	秋祭りを開くために必要な役割を話し合ったり，準備をしたりして，みんなと協力して秋を楽しもうとしている。				

単元名

ひろがれ えがお

教科書 上巻 p.86 ～ 97 単元の配当時間 10 時間（そのうち※の時数 3時間）

単元の目標

家庭生活について調べたり，自分の家庭生活を振り返ったりする活動を通して，家の人のことや，家の人のよさ，家族の一員として自分でできることを考え，家族の温かさや家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり，自分の役割を積極的に果たすとともに，規則正しく健康に気をつけて生活を送ることができるようにする。

小単元の目標と評価例

ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
1 日の 生かっを ふりかえろう（3時間） 自分の生活を見直し，規則正しく健康に気をつけて生活しようとしたり，家族の笑顔が増やせるように挑戦しようとしたりする意欲をもつことができるようにする。	知・技	規則正しく生活することの大切さに気付いている。	p.88-89 ① 自分の1日を振り返る。 ② 自分の1日の生活を振り返り，気付いたことを友達と話し合う。 ③ 自分にもできる仕事や自分でやってみたい仕事に意欲をもつ。	1	・教科書p.88-89を参考に自分の1日を振り返る。	○この単元は，子どもが家庭で行う活動が多いため，単元をはじめる前に学習のねらいや学習内容について，保護者会や学年便りなどを利用して，保護者の理解を得ておくようにする。プライバシーに十分配慮しながら，子どもの家庭環境をあらかじめ把握し，多様な支援ができるようにする。
	思・判・表	1日の生活を振り返り，絵や文章にして表現したり，友達に紹介したりしている。				
	主体	自分の生活に関心をもち，規則正しく生活することや，家族の笑顔を増やす挑戦に見通しをもって取り組もうとしている。				
みんなに えがおを ひろ げよう（4時間） 家族の笑顔を増やしたいという意欲をもち，家族がしていることや，家族にしてもらっていることを振り返ったり，調べたりして，自分でできることや挑戦したいことを考えて，実行することができるようにする。	知・技	家庭生活において，自分でできることや家庭での自分の役割があることに気付き，家族の温かさ気付いている。	p.90-91 ① 自分でできる仕事や自分でできることを見つけて，計画を立てる。 ② 自分で決めた仕事に家で挑戦する。 ③ 家で挑戦したことを伝え合う。	2	・家庭生活の中で，自分でできる仕事や自分でできることを見つける。 ・自分で決めた仕事に家で挑戦する。	●不特定多数の人が接触する場所での活動（ゴミ捨て，買い物）は避けるようにさせる。
	思・判・表	自分でできることや挑戦したいことを選んだり，決めたりして，計画を実行するとともに，家で挑戦したことを絵や文章で記録している。				
	主体	家族がしていることや，家族にしてもらっていることに関心をもち，家族の笑顔が増えるように自分にできることをしようとしている。				

単元の評価規準

●知識・技能

規則正しく健康に気をつけて生活することの大切さや，家庭での生活は互いに支え合っていることが分かるとともに，自分でできることや家庭での自分の役割に気付いている。

●思考・判断・表現

家庭生活における家の人のこと，家の人のよさ，自分でできることについて考えたり，家庭生活が楽しくなるように工夫したりして，それを素直に表現している。

●主体的に学習に取り組む態度

家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどに関心をもち，自分の役割を積極的に果たしたり，規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
ひろがった　えがおをつたえよう（3時間） 家で挑戦したことを友達と紹介し合う中で，家庭での自分の役割を増やしたり，これからも継続しようとしたりするとともに，健康に気を付けて生活することができるようにする。	知・技	自分が家族のために何かをしたり，自分でできることをしたりすることで，家族が喜んでくれることに気付くとともに，家庭生活における役割が増えた自分の成長や友達の良さに気付いている。	p.92-93 ① 発表用のカードを準備する。 ② 良かったことや気付いたことを友達と紹介し合う。 ③ これからも続けたいことを考える。	0		
	思・判・表	家で挑戦したことを絵や文章でかいたり，実演したりして，友達に分かりやすい伝え方の工夫をしている。				
	主体	家で挑戦したことや自分でできるようになったことを友達や先生に伝えようとするとともに，家庭での自分の役割を増やしたり，これからも継続しようとしたりしている。				

単元名

ふゆと なかよし

教科書 上巻 p.98 ～ 107 単元の配当時間 10 時間（そのうち※の時数 1時間）

単元の目標

身近な自然を観察したり，冬の遊びを楽しんだりする活動を通して，冬の季節の特徴やそれらを利用した遊びの面白さに気付くとともに，それぞれの季節の良さや繋がりについて考え，自分の生活を楽しくすることができるようにする。

小単元の目標と評価例

ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
ふゆは どんな きせつかな？（1時間） 普段の生活で気付いた冬について友達と伝え合う活動を通して，身近な冬に関心を持ち，冬探しの見通しをもつことができるようにする。	知・技	冬の季節の特徴に気付くとともに，冬の楽しみ方や生活の知恵について気付いている。	p.100-101	0		
	思・判・表	自分の生活経験に基づいて冬の季節について考え，今後の活動に見通しをもっている。	① 身の回りで感じられる季節の変化について気付いたことを発表し合う。 ② 教科書p.100 ～ 101 を見ながら話し合う。 ③ 冬さがしの計画を立てる。			
	主体	冬の季節に関心を持ち，生活の中で気付いた冬について，進んで話そうとしている。				
ふゆの 校ていに出よう（2時間） 諸感覚を使って，冬の校庭を探検する活動を通して，冬の特徴や季節の変化に気付くとともに，冬の遊びを楽しむことができるようにする。	知・技	冬の植物や生き物，校庭の変化の様子，風や影の変化に気付いている。	p.102-103	0		
	思・判・表	四季の特徴を感じたり，確かめたりしながら，身近な自然を楽しんでいる。	① 校庭や学校周辺の自然と関わり，冬らしさを見つける。 ② 学校の周辺やなじみの場所に出かけ，冬の特徴や季節の変化に気付く。 ③ 冬の特徴や季節の変化で気付いたことや感じたことを記録カードにまとめたり，発表したりする。			
	主体	四季の変化や季節の特徴に関心を持ち，思いや願いをもって身近な自然と関わる活動を楽しもうとしている。				

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
ふゆの あそびをくふうしよう（5時間） 冬の特徴を生かした遊びを楽しんだり工夫したりして，冬の遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことができるようにする。	知・技	季節に応じた遊び（風・影・氷・雪などを利用した遊び）があること，また，その楽しみ方に気付いている。	p.104-105 ① 冬のいろいろな遊びを考える。 ② 寒さに負けず外で元気よく遊び，冬をみんなで楽しむ。 ③ 冬の遊びを工夫する。	0		
	思・判・表	風・影・氷・雪など冬の自然を生かして，遊びを考えたり，工夫したりしている。				
	主体	冬の自然の変化や特徴に応じながら，冬の自然を利用した遊びや活動を友達と一緒に楽しもうとしてる。				
あそんだふゆをしょうかいしよう（2時間） 遊んだ冬について，伝え方を工夫しながら冬の季節の特徴や良さについて相手に伝えることができるようにする。	知・技	冬の季節の特徴や良さに気付くとともに，四季の変化や季節の移り変わりと自分の生活との関わりに気付いている。	p.106-107 ① どんな発表の仕方があるか考える。 ② 発表の準備をする。 ③ お互いの遊んだ冬について紹介し合う。	1	・家の人に，冬遊びを通して見つけたことや気付いたことについて話す。	○学級便りを通して，事前に保護者の方に，子どもから冬遊びの報告があることを伝え，子どもの話を聞いて，質問や感想を言ってもらうように依頼する。
	思・判・表	自分が一番伝えたいことは何かを考え，そのために有効な発表方法を選び，相手に分かりやすく伝えている。				
	主体	遊んだ冬について自分なりの方法で進んで伝えようとするとともに，これからも四季の特徴を生かして自分の生活を楽しくしようとしている。				

単元名

もう すぐ 2年生

教科書 上巻 p.108 ～ 117 単元の配当時間 13 時間（そのうち※の時数 3時間）

単元の目標

入学してからの1年間を振り返ったり，年長児との関わりを深めたりする活動を通して，自分が大きくなったこと，自分
でできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かるとともに，これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝
の気持ちを持ち，進級する喜びやこれからの成長への願いをもって意欲的に生活することができるようにする。

小単元の目標と評価例

ここに示した例は，啓林館の教科書を使用した場合に考えられる参考例です。学校の実態に合わせて改変して使用してください。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
1 年かんを ふりかえろう （2 時間） 入学してからの1年間の活動や行事などを友達とともに振り返り，楽しい思い出がたくさんできたことに気付くことができるようにする。	知・技	季節や時間の移り変わりの中で，たくさんの思い出ができたことに気付いている。	p.110-111	0		
	思・判・表	写真や記録カードを手がかりに，楽しかった出来事やお世話になった人のことを思い出し，まとめたり，話し合ったりしている。	① かきためた記録カードや作品などをもとに楽しかったことや思い出などを話し合う。 ② 思い出の品を紹介し合いながら，楽しかったことや印象に残っていることをみんなで整理する。 ③ 季節ごとに分けたり，順序よく整理したりして，自分にとっての楽しかったベスト3を考える。			
	主体	自分自身の成長に関心を持ち，自分の成長を振り返ろうとしている。				
できるようになったことを あつめよう （4時間） 入学してからの記録や作品などから，自分も友達もできるようになったことが増え，互いに成長したことに気付くことができるようにする。	知・技	振り返りの過程で，自分が大きくなったこと，自分のできるようになったこと，役割が増えたことなどに気付くとともに，友達の成長や良さに気付いている。	p.112-113	1	・1年間でできるようになったことや成長したところを振り返る。	
	思・判・表	過去の自分と現在の自分を比較して考えたり，できるようになったことや得意なことをまとめたり，発表したりしている。	① 活動の記録や思い出の作品などを見せ合い，自分たちが成長してきたことを確かめる。 ② 友達のできるようになったことを教え合う。 ③ できるようになったことを付せん紙やマグネットボードを使ってまとめる。 ④ できるようになったことを発表し合う。			
	主体	自分と家族や身近な人との関わりについて関心を持ち，自分の成長や友達の良さを見つけようとしている。				

単元の評価規準

●知識・技能

多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと，自分のできるようになったこと，役割が増えたことなどが分かり，自分の良さや可能性に気付いている。

●思考・判断・表現

自分自身の成長を振り返り，これまでの生活や成長を支えてくれた人々，これからの成長について考え，それを素直に表現している。

●主体的に学習に取り組む態度

自分自身の成長に関心を持ち，これまでの生活や成長を支えてくれた人々へ感謝の気持ちをもつとともに，これからの成長への願いをもって，意欲的に生活しようとしている。

小単元名と小単元の目標	評価規準（B基準：おおむね満足できる）		活動の流れ	※の時数	※学校の授業の場以外での学習が可能と考えられる活動	備考（○＝指導に関する補足，●＝感染症対策の例，★＝学習活動に有効なデジタルコンテンツの例）
あたらしい 1 年生を しょうたいしよう （4時間） 友達と協力して新しい1年生（園児）に喜んでもらえるような準備や取り組みを進め、温かく優しい気持ちで1年生を迎えることができるようにする。	知・技	自分たちにも新しい1年生（園児）にしてあげられることがあることに気付いている。	p.114-115 ① 新しい1年生に学校を紹介する会を計画する。 ② 新しい1年生に学校を紹介する会の準備をする。 ③ 新しい1年生を招待する。	1	・新しい1年生に学校を紹介するための準備をする。	●状況を見て、新しい1年生との交流活動の開催の有無の検討が必要。 ○「あたらしい1年生をしょうたいしよう」、「しょうたいしたことをふりかえろう」の小単元は、新しい1年生との交流活動を想定しているため、感染症対策の観点から実施できない可能性も考えられる。これらの小単元を実施しない場合は、入学してからの記録や作品をもとに1年間の自分の成長を振り返り、自分なりに「自分が成長したところ」をまとめる活動を行い、自分自身の成長に気付くことができるような学習活動を行うようにする。また、新しい1年生のために教室を綺麗に掃除をしたり、飾り付けをしたりするなどの活動も考えられる。
	思・判・表	自分の経験やできるようになったことの自信から、新しい1年生が喜んでくれそうなことなどを考えている。				
	主体	1年生が喜んでくれる準備や工夫を意欲的に話したり、発表したりしている。				
しょうたいした ことを ふりかえろう（3時間） 新しい1年生との交流を終えて、自分の役割が果たせた喜びや、新しい1年生に優しく接することができた達成感を感じるとともに、自分自身の成長に気付くことができるようにする。	知・技	自分自身のよさが分かり、これからも成長できることに気付いている。	p.116-117 ① 招待したことを振り返る。 ② 新しい1年生と幼稚園や保育所などの先生からの手紙を読んで、気付いたことを話し合う。 ③ 2年生になってしてみたいことやできるようになりたいことを話し合う。	1	・家の人に、2年生になってしてみたいことや頑張りたいことを話す。	○学級便りを通して、事前に保護者の方に、子どもから2年生に向けての目標の報告があることを伝え、子どもの話を聞いて、質問や感想を言ってもらうように依頼する。
	思・判・表	2年生に進級する喜びや2年生になってしてみたいことを考えたり表現したりしている。				
	主体	新しい1年生に積極的に関わることができた達成感や、2年生に進級する喜びの気持ちをもち、意欲的に生活しようとしている。				